

声

業界の



● 山梨県絹人織織物工業組合

理事長 勝俣 明美 氏

業界の現況は？

本組合は郡内地域の織物産業の振興発展に尽力している組合です。本県東部・富士五湖(郡内)地域は、全国でも有数の織物の産地です。郡内織物には、男性服裏地、ネクタイ、ストール・マフラー、洋傘、カーテン・寝装等、多品種が生産されています。特に「ネクタイ」については、全国でも有数の生産量を誇っています。

当産地の織物業界は昭和50年代をピークに、その生産量、売上高ともに激減傾向にあります。これは、中国をはじめとした東南アジア諸国の安価な賃金から生み出される低価格製品の氾濫により、商品力のみでは太刀打ちできず、長期にわたる構造的な不況が続いています。そのため、織物に携わる業者も減少傾向にあり、厳しい状況です。

今後の展開は？

従前から当産地内の経営形態はOEM(相手先ブランド名製造)が大部分です。しかし、この体制では、価格面で相手方の意向が強く反映されてしまい、受注量が増えても収益は伸びないという状況になってしまっています。

そこで、業界では「OEMからの脱却」を掲げ、自社ブランドを立ち上げ、自ら販売していくスタイルを模索しています。その一環として、ネクタイ及びストールといったネック周りの商品を新しい感覚で作りに上げ販売する試みである「NOTE、YOU DIE」事業、産地内の若手後継者が学生と一緒に「独自ブランドを立ち上げる取り組みである「産学コラボ」事業があります。これらは新たな産地の方向性を示唆している事業で、大いに期待をしています。

今後も組合員の製品のブランド化を進め、消費者に直接製品をお届けできる機会を増やしていきたいと思えます。そして、将来的には業界内における生地生産高の自社ブランド比率を3割まで上げていきたいと考えています。



組合が製作した自社ブランドパンフレット